日刊 動労千葉
86.12.10
No. 2428

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

また 動労組合員が自殺

守るべき労働組合なし 11/29 新潟

「新会社は天国」「動労は新会社へのパスポート、ビザを取りつけた」といってはばからない動労「本部」の内部からまた自殺者が出た。動労新潟の組合員が乗務中の事故を苦に国鉄法案が成立した翌日の十一月二九日、「新会社に残れない」と自ら命を断ってしまった。　当局と一体となって自殺にまで追いこんだのは動労革マル・松崎だ。断じて許せない！

組合員の自殺をヒタ隠し

自殺をした動労組合員は「出向すれば新会社へ残れる」などと組合から出向を強要され、三本柱に応じ最近戻ってきたばかり、多車種教育を受け見習い中、ミスをおかし「反省室」なる部屋に入れられ、以降「新会社に残れない」となやんでいた、という。

まさに、当局と動労革マルが一体となった分割・民営化攻撃によって自殺に追い込まれたことは明らかだ。

ミスしたのは本人が悪い、なやむのは個人問題、自殺するのも本人が悪い、といって動労組合員の自殺・未遂者の事実をひたかくしにしている。

動労革マル・松崎にとって分割・民営化の犠牲者すら許されないのだ。

いつの間に地獄が「天国に」

七月、動労組合員の新幹線運転士が企業人教育で書類を忘れたことを罵倒され「もう新会社へ残れない」となやみ自殺。

動労革マル・松崎や鉄労・志摩らは、「新会社に行くことが天国」であるかのように言っている。いつの間にか地獄の新会社が「天国」にすりかわってしまった。

誰が言わしたのだ。松崎や志摩など改革協に寄り集っている連中ではないか。

労働者を守るべき労働組合が当局と一体となって、労働者を人間扱いしないばかりか死に追い込んでいる。

労働組合は労働者を守る組織

動労千葉・中野委員長は「十一・三〇集会」で次のように発言している。

「労働組合は、そもそも労働者を守る組織ではないか。労働者の怒りを代弁する組織ではないか。労働者の怒りをエネルギーとして結集し、それを敵にぶっつけ労働者の要求を実現する組織ではないか。しかし、いま国鉄内の多くの労働組合は労働者の組織ではなくなってしまっている。組合幹部の自己保身のために、セクトの利害のみのために労働者をひきまわす組織になってしまった」

新会社は「天国」なんかじゃない。今までの労働条件はすべて破壊され、すさまじい労働地獄へとたたきたまれるのだ。

いまほど、労働者の怒りを代弁する組織が真に求められている時はない。それが動労総連合である。

12/3 読売

運転士の研修ミス苦に 動労組合員が自殺

国鉄新潟運転所勤務の動労新潟地本組合員が、新会社へ残留しやすい電車運転士の資格を取得する研修中にミスを犯し、それを苦に首つり自殺していたことが二日明らかになった。自殺したのは新潟県村上市瀬波上町二二の四一、新潟運転所職員瀬賀清作さん（四五）。村上署の調べによると、瀬賀さんは先月二十九日夕、自宅車庫内で首をつって死んでいるのが見つかった。

自宅に遺書があり、「電車運転士への道が開けてきたのに、研修中にミスを犯し、上司に申し訳ない」と書かれてあったことから、同署はミスを苦にノイローゼ気味となり、自殺したとみている。

瀬賀さんは機関士、気動車運転士を経て、昨年四月から余剰人員対策に伴う国鉄関連の客車清掃会社に自ら志願して派遣され、先月、新潟運転所に復帰したばかり。新会社へ残りやすいよう、路線が縮小されつつある気動車から電車の運転士へ替わるための二か月間の研修を受けていた。

ところが、先月十八日午後六時ごろ、長岡駅構内で電車を運転中、停止信号を見落とし二十メートル行き過ぎる運転ミスを起こした。新潟鉄道管理局運転車両部の岡本松男総務課長は「運転ミスは研修中であり、本人を責めたような経緯はない」と話している。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！